

本

# 里山産業論

「食の戦略」が六次産業を超える

## 地域の個性をつくる持続的な仕組みづくり

私たちが旅行先を選ぶとき、何を期待してその場所を選ぶだろうか。交通の便や予算の問題もあるが、その土地ならではの景色や味覚、体験ではなかろうか。どこへ行っても似たような風景で、どこでも食べられるものであれば、わざわざ旅行に出る必要性はないかもしれない。違うから魅力を感じるのだ。加えて、活気があること。寂れた商店街や荒れ果てた耕作放棄地ばかりの景色に旅の楽しさは感じられないだろう。そう、訪れたいくなるような魅力的な地域とは、そこに住む人自身が生き生きとしていて、そこならではの景色や食といった持ち味を生かしたまちづくりができていること。そこには将来性があり、希望が見える。

全国1000カ所以上を巡り、農家や地域の食の事業に関わってきた著者は、「地域の個性を形作るのは食文化、経済、地域、環境などを複合した戦略である」と説く。さらに、「とりわけ人材への投資こそが必要」と訴え

る。今、求められているのは、その土地にあるものとノウハウを連携させ、次の世代に誇りを持って手渡せる仕組みをつくること。そして、留学など地域の荷（にな）い手を育成する体制の改革だ。本書では、現在の問題点を具体的に指摘し、成功事例として国内だけでなくフランスやイタリアの事例も盛り込んだ。すでに具体的な活動を起こし、動いている地域はある。地域活性化に関わる人はもちろん、ごく普通の旅行好きな人にとっても地域を深く味わえる手がかりになる一冊だ。（則竹知子）



▽金丸弘美 著  
▽角川新書  
▽本体 800円＋税